

マーケットの動き (2022年2月14日～2月18日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。日銀は10日、長期金利の上昇を抑え込むため、14日の「指し値オペ」実施を通知したことにより金利は低下して始まり、その後は「指し値オペ」の影響から変動幅の小さい推移となりました。週末にかけては、ウクライナ情勢を巡る警戒感の強まりからリスク回避の動きが広がり、国内債券にも買いが波及しました。

投資環境見通し (2022年2月)

国内長期金利は比較的狭いレンジ内での動き

主要中央銀行による金融政策正常化の動きが注目される中、日銀は金融政策決定会合において現行の緩和的な金融政策を継続する姿勢を示しました。国内長期金利は、足元では海外市場の動きに連れて上昇しましたが、当面は日銀によるイールドカーブ・コントロールを背景に比較的狭いレンジ内での動きになるとみています。

	2月18日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.22	▲0.00	0.07	0.21	0.13
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	380.57	▲0.25%	▲1.21%	▲2.09%	▲1.21%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

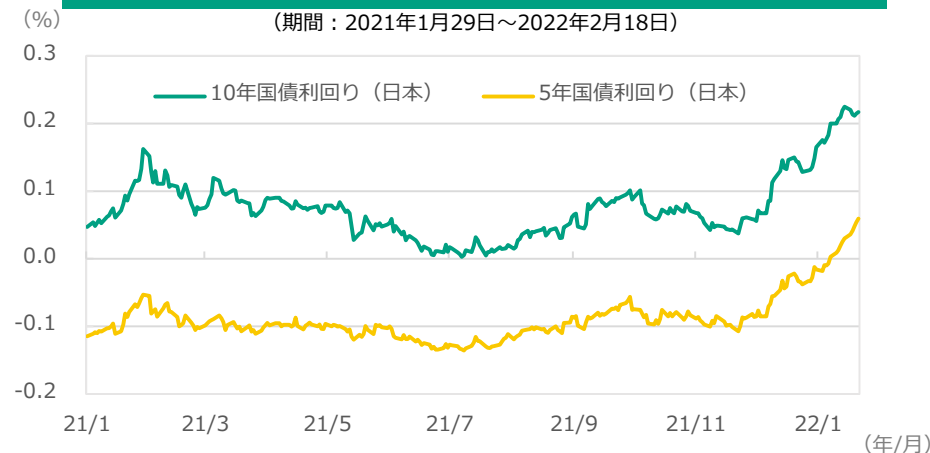
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202202_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

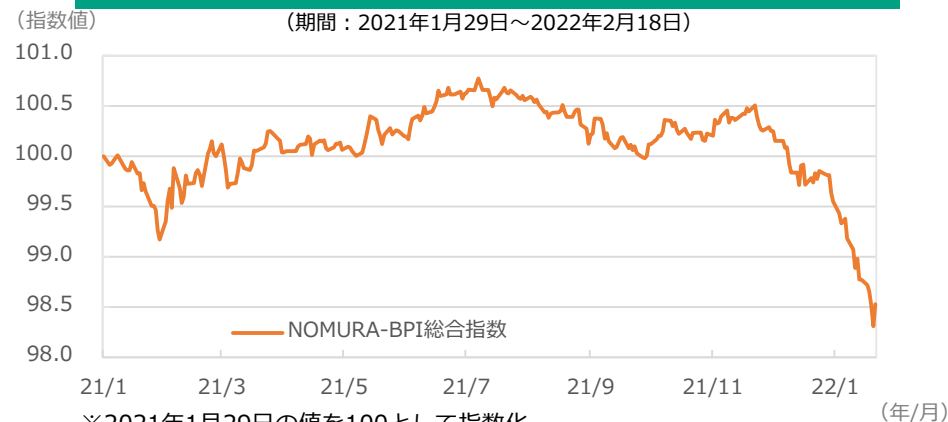
日本国債利回りの推移

(期間：2021年1月29日～2022年2月18日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2021年1月29日～2022年2月18日)



※2021年1月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成